

(元種)の配布

マイクロチューバー生産を行う機関が、マイクロチューバー生産に用いる馬鈴しょ(元種)が必要な場合は、種苗管理センターから配付することとした。

配布の申請は、増殖計画を種苗管理センター所長に提出する際、併せて行うこととし、種苗管理センター所長は申請を踏まえ、馬鈴しょ塊茎又は培養苗の形態で配布することとした。また、配布価格は種苗管理センター所長が定めることとした。

なお、元種については生産機関が無病健全な元種を既に確保できている場合は、申請する必要はない。

(7) 調査協力

マイクロチューバーによる健全無病な種馬鈴しょ増殖のための課題解決を図るため、必要に応じマイクロチューバーの生産及びこれを用いた種馬鈴しょ増殖に関する調査について、協力を依頼できるようにした。

4. これからのマイクロチューバーによる種

馬鈴しょ生産

本通達を受けマイクロチューバーによる実際の種馬鈴しょ増殖は、平成11年北海道において植え付けられる春作産(平成11年春には場に植え付けるマイクロチューバーに該当)から実施する予定である。

しかしながら、マイクロチューバーによる種馬鈴しょの生産は、現時点で全国のどの種馬鈴しょ生産者でも実施可能なものではなく、今後とも技術開発・安定化が必要であるとともに、生産者等へのきめ細かい指導が必要である。また、マイクロチューバーは通常の種馬鈴しょに比べ高価であることから、生産コストの低減が急務である。

このため、マイクロチューバーによる種馬鈴しょ生産・増殖は、現時点において、新品種の急速増殖等の特定の用途に限定されると思われるが、今後、生産・増殖技術等の課題の解決が図られたならば、マイクロチューバーのもつ有効性を活かした種馬鈴しょの利用が拡大するものと見込まれる。

イタソーネットのジャガイモ博物館

手前味噌で恐縮ですが、個人でインターネットを開設してジャガイモ情報の発信をしていますので、その概要を紹介いたします。

ホームページの呼び名は『ジャガイモ博物館』。アドレスは、次の通りです。 <http://www.bekkoa.me.ne.jp/~asamak/> トップページには、本州の方の受けをねらったジャガイモの果実の画像があり、メニューが続いています。

*1と*2は質問・疑問とそれに答える形の解説があり、ジャガイモの成分、用途、花や収穫を見る時期などや、*3でも家庭菜園で知って欲しい情報を載せています。*5の「ジャガイモの花園」と「品種別花園」は人気があり、ご覧になった方から、その多様な美しさに驚いた、という感想が参ります。*6と*7は北海道のジャガイモづくり作業、風景を道外向けに紹介しています。*8「品種解説」は、特性などの解説が詳細で、花や塊茎の写真もあるので、農家から消費者まで利用可能です。続くところでは、ジャガイモを栽培していて、病気や虫に取りつかれたというときに、その被害から原因の見当をつける上で役立ちそう

な写真集とか、ウイルス病の症状等々……。

このホームページの特徴のひとつにあげたいのが*30、*31の「エッセイ」です。ジャガイモの歩み、味、形、用途、栄養、チップス、カレーライス等の事始めなど幅広い分野に絡めたエッセイ風解説が、本1冊分以上あり、広く読まれているようです。長い間ジャガイモに関わってきた関係で、それらに添えてあるカット、写真も多様です。これまでのジャガイモへのこだわりは、続くジャガイモ・ジョーク集、俳句集、テレホンカード写真集にもみることができましょう。このように、幅が広いので博物館の名をつけました。

このホームページを使い易くするため、*50検索もつくっておきました。そこをクリックして入ると、アイウエオ順にのっている項目、たとえば、各品種名、ソラニン、いももち、新ジャガ、チューニョ、川田龍吉…といった文字をクリックするだけで、その知りたいうところに飛んで行けます。

一度お立ち寄りのうえ、メールでご感想をいただければ幸いです。

(ホクレン種苗園芸部 浅間和夫)